

糖尿病で視力を失わないために 11月は全国糖尿病週間です

厚生労働省が3年ごとに実施している「患者調査」の平成20年調査によると、糖尿病の総患者数(継続的な治療を受けていると推測される患者数)は、237万1,000人でした。性別では男性131万2,000人、女性106万1,000人で男性に多い傾向があります。

そこで今回は、糖尿病をテーマに**糖尿病網膜症**についてお伝えしたいと思います。

糖尿病網膜症は腎症、神経症とともに糖尿病の三大合併症の一つです。糖尿病と診断されてから5~10年後に発症することが多く、コントロールの良い方にも発症しますので、定期的な検査が必要です。コントロールがかなり悪い方でも最初の数年間は発症しにくいのですが、ひとたび発症すると、それまでのついでが一気に回ってきたかのように、それこそ“坂道を駆け落ちるように”進行して失明に至ることも少なくありません。実際、成人中途失明の主要な原因となっています。

〈自覚症状〉

かなり進行するまで視力低下などの自覚症状は少ないと言われています。「まだ見えるから大丈夫」という自己判断は無意味なばかりではなく、危険です。早めに見つけましょう。

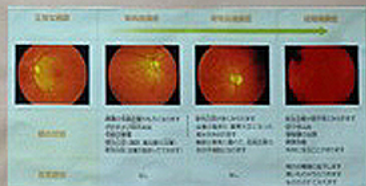
〈治療〉

血糖のコントロールであり、日頃からの地道な治療が最も大切です。眼科的に網膜のレーザーや硝子体手術といった治療法がありますが、これらはかなり進行した場合に進行を抑えるために行われるもので、ひとたび視力が障害されると、回復しにくいこともしばしばです。

〈予防〉

合併症が少くならないうちに血糖コントロールを改善することが重要です。糖尿病網膜症の進行しやすい人は、食事制限の不充分な人、内科や眼科への通院をたびたび中断する人、眼科の検診を受けない人、糖尿病罹患年数の長い人(10年以上)などで、特に40~50歳代の比較若い方は要注意です。自覚症状がなくても、定期的な受診を続けて下さい。

糖尿病網膜症の進行段階



「糖尿病連携手帳」と
「糖尿病眼科手帳」と活用
しましょう。



糖尿病の治療と困ったことや
悩みごとがあれば、医師や医療
スタッフに遠慮なく相談しましょう

